

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名 社会福祉法人徳寿会 晃風園
 研修事業の名称 晃風園介護職員初任者研修

1 職務の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	2時間	<p>《講義内容》</p> <p>介護保険サービス（居宅・施設）の種類と、サービスが提供される場の特性の理解、また、介護保険外サービスの種類と、サービスが提供される意義や目的を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービス ・介護保険外サービス <p>《演習内容》</p> <p>福祉ミックスの視点で、暮らしの中にあるニーズとサービスのマッチングについて考える。介護保険では提供できないサービスについて、どのようなサービスがあると良いかグループワークで意見交換をする。</p>
②介護職の仕事内容や働く現場の理解（1）	2時間	<p>《講義内容》</p> <p>介護サービス提供現場の実際を施設、居宅の各サービス提供現場における介護職の仕事内容、役割を写真や動画などを用いることや、施設見学を通して、具体的にイメージすることができるよう講義し理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ <p>《見学》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人内の施設を見学し、介護職の具体的なイメージを持って各科目の学習に取り組めるようにする。 <p>(見学場所)特別養護老人ホーム晃風園他</p>
②介護職の仕事内容や働く現場の理解（2）	2時間	<p>《講義内容》</p> <p>介護サービス提供に至るまでの流れとして、ケアマネジメントとは、サービス提供までの流れを理解する。</p> <p>チームアプローチ、地域連携の必要性について、介護職から見た事業所内の他職種、地域・社会資源との連携など、介護を取り巻くチームアプローチについての概要を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアプラン緒位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・多職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携
合計	6	

2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9.5 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護 (1)	5 時間	<p>《講義内容》</p> <p>介護職が、高齢者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援と介護予防という基本的視点を理解する。</p> <p>高齢者の尊厳について学び、高齢者虐待防止について理解する。</p> <p>(ア) 人権と尊厳の保持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人としての尊重 ・ アドボカシー ・ エンパワメントの視点 ・ 「役割」の実感・尊厳のある暮らし ・ 利用者のプライバシーの保護 <p>(イ) 介護分野における I C F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護分野における ICF <p>(ウ) Q O L の考え方と生活の質</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ QOL の考え方 ・ 生活の質 <p>(エ) ノーマライゼーションの考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノーマライゼーションの考え方 <p>《演習内容》</p> <p>介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚することを目的に事例を用いてグループワークを行う。</p>
①人権と尊厳を支える介護 (2)	1.5 時間	<p>《講義内容》</p> <p>介護が必要な状況であっても、ひとりの人であるという考え方を以下のキーワードを用いて講義し、人権や尊厳について理解を深める。</p> <p>(オ) 虐待防止・身体拘束禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (施設内での) 虐待防止・身体拘束禁止 <p>(カ) 個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報保護法

<p>①人権と尊厳を支える介護 (3)</p>	<p>2 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <p>(オ) 虐待防止・身体拘束禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (在宅での) 高齢者虐待 ・ 高齢者虐待防止法 ・ 高齢者の養護者支援 <p>(カ) 個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報保護法 ・ 成年後見制度 ・ 日常生活自立支援事業
<p>②自立に向けた介護</p>	<p>1 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <p>介護における自立とは何かを理解する。 「その人らしさ」を尊厳するために、介護職として配慮すべき点について理解する。 介護の予防の考え方について理解する。</p> <p>(ア) 自立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自立・自律支援 ・ 残存能力の活用 ・ 動機と欲求 ・ 意欲を高める支援 ・ 個別性/個別ケア ・ 重度化防止 <p>(イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護予防の考え方
<p>合計</p>	<p>9.5</p>	

3 介護の基本（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	<p>《講義内容》</p> <p>介護に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち、重要なものを理解する。</p> <p>介護を必要としている人の個性をりかいし、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。</p> <p>(ア) 介護環境の特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護と施設介護サービスの違い ・地域包括ケアの方向性 <p>(イ) 介護の専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度化防止・遅延化の視点 ・利用者主体の支援姿勢 ・自立した生活を支えるための援助 ・根拠のある介護 ・チームケアの重要性 ・事業所内のチーム ・多職種からなるチーム <p>(ウ) 介護に関わる職種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる専門性を持つ多職種の理解 ・介護支援専門員 ・サービス提供責任者 ・看護師等とチームとなり利用者を支える意味 ・互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ・チームケアにおける役割分担
②介護職の職業倫理	1時間	<p>《講義内容》</p> <p>日本介護福祉士会の倫理綱領および行動規範をもとに、具体例を挙げながら講義し理解を深める。</p> <p>職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義 ・介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等） ・介護職としての社会的責任 ・プライバシーの保護・尊重

<p>③介護における安全の確保とリスクマネジメント</p>	<p>2時間</p>	<p>《講義内容》</p> <p>介護現場における「事故」の考え方を説明し、具体的な事例を上げながら、なぜ事故を防ぐのかを理解する。</p> <p>また、事故予防のための記録、報告、原因分析、再発予防策について、必要性と手法を理解する。</p> <p>介護現場で注意すべき感染症について、感染の原因や感染経路について理解する。また感染経路の遮断や、標準予防策などの対策手法を理解し、感染に対する正しい知識を身につける。</p> <p>(ア) 介護における安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故に結びつく要因を探り対応していく技術 ・ リスクとハザード <p>(イ) 事故予防、安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクマネジメント ・ 分析の手法と視点 ・ 事故に至った経緯の報告（事業所内、家族への報告、市町村への報告等） <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の共有 <p>(ウ) 感染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断） ・ 「感染」に対する正しい知識 <p>《演習内容》</p> <p>○手指衛生、手袋の着脱、ガウンテクニック等の技術を習得する</p>
<p>④介護職の安全</p>	<p>1時間</p>	<p>《講義内容》</p> <p>介護職の心身の健康管理について、自身の健康管理をすることの重要性を以下の項目に分けて講義し理解する。</p> <p>介護職の心身の健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護職の健康管理が介護の質に影響 ・ ストレスマネジメント ・ 腰痛の予防に関する知識 ・ 手洗い・うがいの励行 ・ 手洗いの基本 ・ 感染症対策
<p>合計</p>	<p>6</p>	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度 (1)	3 時間	<p>《講義内容》</p> <p>(ア)介護保険制度創設の背景及び目的、動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ケアマネジメント ・ 予防重視型システムへの転換 ・ 地域包括支援センターの設置 ・ 地域包括ケアシステムの推進 <p>(イ)仕組みの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保険制度としての基本的仕組み ・ 介護給付と種類 ・ 予防給付 ・ 要介護認定の手順 <p>(ウ)制度を支える財源、組織・団体の機能と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財政負担 ・ 指定介護サービス事業者の指定 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者を取り巻くサービスについてのグループワーク <p>事例を元に、そのケースについてどのようなサービス(支援)があると良いかをグループ毎に検討して、対象者を取り巻くサービスについて理解を深める。</p>
①介護保険制度 (2)	2 時間	<p>《講義内容》</p> <p>(イ)仕組みの基礎的理解</p> <p>介護給付と種類 施設サービスについて理解できる。</p>
②医療との連携とリハビリテーション (1)	1 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療行為と介護 ・ 訪問看護 ・ 介護職と医療行為の実情と経過について ・ 在宅におよび施設における介護職と看護職の役割・連携 ・ 訪問看護サービスについて ・ 介護職と看護職の専門性の連携のポイント
②医療との連携とリハビリテーション (2)	1 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リハビリテーションの理念 ・ リハビリテーションの目的 ・ リハビリテーションと介護の連携

<p>③障害福祉制度およびその他 制度</p>	<p>2時間</p>	<p>《講義内容》</p> <p>(ア) 障害福祉制度の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の概念 ・ I C F (国際生活機能分類) <p>(イ) 障害福祉制度の仕組みの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで <p>(ウ) 個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報保護法 ・ 成年後見制度 ・ 日常生活自立支援事業
<p>合計</p>	<p>9</p>	

5 介護におけるコミュニケーション技術 (6 時間)

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	4 時間	<p>《講義内容》</p> <p>(ア)介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ・傾聴 ・共感の応答 <p>(イ)コミュニケーションの技法、 道具を用いた言語的コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語的コミュニケーションの特徴 ・非言語的コミュニケーションの特徴 <p>(ウ)利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思いを把握する ・意欲低下の要因を考える ・利用者の感情に共感する ・家族の心理的理解 ・家族へのいたわりと励まし ・信頼関係の形成 ・自分の価値観で家族の意向を判断し、非難することがないようにする ・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い <p>(エ)利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 ・失語症に応じたコミュニケーション技術 ・構音障害に応じたコミュニケーション技術 ・認知症に応じたコミュニケーション技術 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴についてのロールプレイを行う ・自分自身を知る エゴグラムを用いる ・信頼関係の形成について、具体的な事例を用いてグループ討議を行う

<p>②介護におけるチームのコミュニケーション</p>	<p>2時間</p>	<p>《講義内容》</p> <p>記録の意義と目的を理解し書き方の留意点を学ぶ。チームのコミュニケーションの有効性及び重要性を理解し基礎的な行動（ハウレンソウ）や会議の目的などを理解する。</p> <p>(ア) 記録における情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における記録の意義と目的、利用者の状況を踏まえた観察と記録 ・介護に関する記録の種類と留意点 ・個別援助計画（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等） ・ヒヤリハット報告書 ・5W1H ・保護と管理 <p>(イ) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告の留意点 ・連絡の留意点 ・相談の留意点 <p>(ウ) コミュニケーションを促す環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議 ・情報共有の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼） ・ケアカンファレンスの重要性 <p>《演習内容》</p> <p>実際のチームカンファレンスを想定し、ロールプレイを行う。司会、書記、発表者を決めて、講義内容を踏まえた振り返りも行う。</p>
<p>合計</p>	<p>6</p>	

6 老化の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常 (1)	2 時間	<p>《講義内容》</p> <p>老年期や高齢者の定義についての理解。</p> <p>老化が影響を及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについての理解。</p> <p>老化と共に社会的環境が心理や行動に与える影響についての理解。</p> <p>(ア) 老年期の発達と老化に伴うこころとからだの変化の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防衛反応 (反射) の変化 ・ 喪失体験
①老化に伴うこころとからだの変化と日常 (2)	2 時間	<p>《講義内容》</p> <p>老化に伴う心身の変化が、生活にどのような変化を及ぼし QOL へ影響をするか理解する。</p> <p>(イ) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体的機能の変化と日常生活への影響 ・ 咀嚼機能の低下 ・ 骨・筋・関節の変化 ・ 体温維持機能の変化 ・ 精神的機能の変化と日常生活への影響
②高齢者と健康	2 時間	<p>《講義内容》</p> <p>高齢者に多くみられる疾患やけがなどを知るとともに、その理由や特徴なども理解する。</p> <p>(ア) 高齢者の疾病と生活上の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 骨折 ・ 筋力の低下と動き・姿勢の変化 ・ 関節痛 <p>(イ) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 循環器障害 (脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患) ・ 循環器障害の危険因子と対策 ・ 老年期うつ病症状 (強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症) ・ 誤嚥性肺炎 ・ 症状の小さな変化に気付く視点 ・ 高齢者は感染症にかかりやすい <p>《演習》</p> <p>事例を元に、健康管理に必要な観察のポイントについて考え、その理由をグループワークで共有し、理解を深める。</p>
合計	6	

7 認知症の理解(6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	0.5時間	<p>《講義内容》</p> <p>認知症の人が尊厳を持ち、一人の人としての人生を送ることの重要性とケアの視点を理解する。</p> <p>認知症ケアの理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パーソンセンタードケア ・ 認知症ケアの視点（出来ることに着目する）
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5時間	<p>《講義内容》</p> <p>認知症は様々な病気によって現れる症状であること、また似たような症状や状態があることや違いを知り、疾患としてどのような治療、管理が必要になるかを理解する。</p> <p>認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の定義 ・ 物忘れとの違い ・ せん妄の症状 ・ 健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア） ・ 治療 ・ 薬物療法 ・ 認知症に使用される薬
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活（1）	1時間	<p>《講義内容》</p> <p>認知症の中核症状と BPSD について理解する</p> <p>認知症の疾患について理解する</p> <p>認知症ケアの理念について学ぶ</p> <p>（ア）認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の中核症状 ・ 認知症の行動・心理症状（BPSD） ・ 不適切なケア ・ 生活環境で改善

<p>③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活（2）</p>	<p>2 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <p>認知症ケアの理念や基本方針を理解する 認知症の人の理解と対応を理解する</p> <p>(イ) 認知症の利用者への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の気持ちを推察する ・プライドを傷つけない ・相手の世界に合わせる ・失敗しないような状況をつくる ・すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること ・身体を通したコミュニケーション ・相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する ・認知症の進行に合わせたケア <p>《演習》</p> <p>認知症の人の気持ちと行動について 中核症状がある事でどの様な事で困っているのかロールプレイを行い、認知症の方の気持ちと行動の理解を深める</p>
<p>④家族への支援</p>	<p>1 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <p>認知症当事者家族の支援について理解する。 大和市における取り組みについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の受容過程での援助 ・介護負担の軽減（レスパイトケア）
<p>合計</p>	<p>6</p>	

8 障害の理解 (3 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	1 時間	《講義内容》 (ア)障害の概念と ICF ・ ICF の分類と医学的分類 ・ ICF の考え方 (イ)障害福祉の基本理念 ・ ノーマライゼーションの概念
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	1 時間	《講義内容》 障害の原因となるおもな疾患を理解する。 障害にともなう心理的影響、障害の受容を理解する。 障害のある人の生活を理解し、介護上の留意点について学ぶ (ア) 身体障害 ・ 視覚障害 ・ 聴覚・平衡障害 ・ 音声・言語・咀嚼機能障害 ・ 肢体不自由 ・ 内部障害 (イ) 知的障害 ・ 知的障害 (ウ) 精神障害 (高次脳機能障害・発達障害を含む) ・ 統合失調症・気分 (感情障害) ・依存症などの精神疾患 ・ 高次脳機能障害 ・ 広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (エ) その他の心身の機能障害
③家族の心理、かかり支援の理解	1 時間	《講義内容》 家族への支援 ・ 障害の理解・障害の受容支援 ・ 介護負担の軽減 《演習》 家族の視点から「障害の受容」を考える。事例を用いてグループ討議、発表
合計	3	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（70 時間）			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
基本知識の学習	①介護の基本的な考え方	1 時間	<p>【講義内容】 介護が理論的並びに法的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論に基づく介護 ・法的根拠に基づく介護
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	5 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・こころの持ち方が行動に与える影響 ・からだの状態がこころに与える影響 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己概念についてグループワークで考える ・適応機制について自分自身に置き換えて事例を考える
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解（1）	3 時間	<p>《講義内容》 人体の構造や機能を知り、介護や介助の場面で安全な技術が実施できるための基礎的な知識を得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・中枢神経と体性神経に関する基礎知識
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解（2）	3 時間	<p>《講義内容》 内部器官等の基礎的理解をすることで、利用者の普段の観察ポイントを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気付く視点
	④生活と家事	1 時間	<p>《講義内容》 訪問介護とは何かを理解する。 介護保険制度における自立支援の考え方を理解する。 訪問介護員が行う家事援助の専門性 等を学ぶ。</p> <p>家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活歴 ・自立支援 ・予防的な対応 ・主体性・能動性を引き出す ・多様な生活習慣 ・価値観 <p>《演習》 自立支援の観点から「利用者とともに行動」を考えたとき、利用者がどのように関わられるかを提案してもらい、理解を深める。（項目：料理、掃除、洗濯等） それぞれグループに分かれ意見を出し合う</p>
生活支援技術の講義・演習			

<p>⑤快適な居住環境整備と介護</p>	<p>4時間</p>	<p>《講義内容》 安心して快適に生活するために必要な環境の整備とは何か理解する。 住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について理解する。 高齢者や障害のある人が生活するなかで、住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学ぶ。</p> <p>快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭内に多い事故 ・バリアフリー ・住宅改修 ・福祉用具貸与 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者自身の自宅の構造をそれぞれの事例にし、自宅に高齢者がいたら、どのような環境整備が必要かを考える。個人ワークとグループワークでの検討。 ・車椅子の乗車体験を通し、実際に乗ってみることと、操作してみることで、留意点や支援方法について学ぶ。
<p>⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7時間</p>	<p>《講義内容》（3時間） なぜ身支度を整えるのか理解する。 自立生活を支える身支度の介護について理解する。</p> <p>整容に関する基礎知識、整容の支援技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体状況に合わせた衣類の選択、着脱 ・身じたく ・整容行動 ・洗面の意義・効果 <p>《演習内容》（4時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 洗面・整髪…一部・全介助の方法 2. ヒゲ・ツメの手入れ…一部・全介助の方法 3. 化粧介助 4. 衣服の着脱…①右・左片麻痺介助の方法 ②全介助の方法

<p>⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>8時間</p>	<p>《講義内容》（4時間） 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・以上に関する用具とその活用方法、利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会さんお留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ・利用者の自然な動きの活用 ・残存能力の活用・自立支援 ・重心・重力の動きの理解 ・ボディメカニクスの基本原理 ・移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗） ・移乗介助（車いす・歩行器・つえ等） ・褥瘡予防 <p>《演習内容》（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●体位交換 ●車椅子への移乗・移動 ●肢体不自由者の杖歩行介助 ●視覚障害者の歩行介助
<p>⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>8時間</p>	<p>《講義内容》（4時間） 食事に関する基礎知識、食事環境の整備と食事に関する用具の活用方法と、食事の形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事をする意味 ・食事のケアに対する介護者の意識 ・低栄養の弊害 ・脱水の弊害 ・食事と姿勢 ・咀嚼・嚥下のメカニズム ・空腹感 ・満腹感 ・好み ・食事の環境整備（時間・場所等） ・食事にかんした福祉用具の活用と介助方法 ・口腔ケアの定義 ・誤嚥性肺炎の予防 <p><実技内容>（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に食事環境の整備、食事介助、口腔ケアを行う。

<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>8時間</p>	<p>《講義内容》（4時間） 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羞恥心や遠慮への配慮 ・体調の確認 ・全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方） ・目・鼻腔・耳・爪の清潔方法 ・陰部洗浄（臥床状態での方法） ・足浴・手浴・洗髪 <p>《演習内容》（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全身浴 ●半身浴（部分浴・足浴） ●清拭 ●洗髪
<p>⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>8時間</p>	<p>《講義内容》（4時間） 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄とは ・身体面（生理面）での意味 ・心理面での意味 ・社会的な意味 ・プライド・羞恥心 ・プライバシーの確保 ・おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害 ・排泄障害が日常生活の及ぼす影響 ・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連 ・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法 ・便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ） <p>《演習内容》（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ポータブルトイレの介助 ●おむつ交換
<p>⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>3時間</p>	<p>《講義内容》 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、 快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安眠のための介護の工夫 ・環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室） ・安楽な姿勢・褥瘡予防 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドメイキングを行う

	<p>⑫死にゆく人に関する こころとからだのしく みと終末期介護</p>	<p>3時間</p>	<p>《講義内容》 終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期ケアとは ・高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）癌死） ・臨終が近づいたときの徴候と介護 ・介護従事者の基本的態度 ・多職種間の情報共有の必要性 <p>《演習》 終末期にある高齢者との関わり方について、事例を用いてグループ討議を行い、発表する。</p>
--	--	------------	--

生活支援技術演習	⑬介護過程の基礎的理解	5時間	《講義内容》(3時間) ・介護過程の目的と意義、展開について学習する ・介護過程におけるチームアプローチの重要性について学習する 《演習内容》(2時間) ・事例をもとに個別援助計画書を作成する
	⑭総合生活支援技術演習(1)	1時間	《講義内容》 事例を通じて、利用者のこころとからだの力が発揮できない要因を分析する。 事例を通じて、利用者本人にとって適切な支援技術は何かを検討する 事例を通じて、利用者の心身の状態に合わせた介護を提供する視点について理解する。
	⑭総合生活支援技術演習(2)	4時間	《演習内容》 事例を通じて、計画にもとづいた介護の実施。
実習		10時間	※10時間の内、5時間は規定カリキュラムとし、残り5時間は独自の追加分とする。
	合計	82	
10 振り返り(4時間)			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	①振り返り	3時間	《講義内容》 ・根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) 《演習内容》 ・研修を通じて学んだことを個人ワークで書き出す ・今後、どのように生かしていきたいか、グループワーク ・今後必要な知識、技術等を見つける
	②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1時間	《講義内容》 ○なぜ継続的に学ぶことが必要か 他職種や多くの介護職と協働してご利用者を支援するために必要な技術等の習得の大切さを理解する。 ○晃風園における職場内研修の実例紹介 実際行われている研修を紹介し、理解を深める。
	合計	4	
	全カリキュラム合計時間	137.5時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。